

漢語と日本語の 受け身について

王 硯農

一 能動文と受動文

能動文は動作者を中心にする表現であつて、即ち主語がみずから動作を行なう。

私は彼をなぐる。(我打他。)

それに対して、受動文は被動者を中心にする表現であつて、つまり主語が動作の影響を受ける。

私は彼になぐられた。(我被他打了。)

結局、能動文と受動文とは同じ内容を述べるものであるが、その表現の仕方が違って、ニュアンスが異なる。動作者を中心にするか被動作者を中心にするか、つまり描写の中心をその行為をする人にするのか、その結果を受ける人

にするのかは話し手がその時の状況によつて決める。

二 能動文に対座する受動文

漢語では一般的に言えば能動文に対座する受動文がある。しかしある受動文は語法と語義等の影響を受けて能動文と対座しないものがある。

例えば、

那个城市陷落以后，有的被俘，有的被杀。

(その都市が陥落してから、ある人は捕虜にされ、ある人は殺された。)

日本語には漢語と同じように能動文に対座する受動文がある。ただしいろいろな例外がある。いくつかの例を挙げ

てみよう。

能動文を受動文に変えるとき、無生物主語は使わない。

① この本は昨日買ったものです。

この本は昨日買われた。(不可)

② 友達は辞典をまちがえました。

辞典は友達にまちがわれました。(不可)

同一の動詞でも能動文と受動文の中に用いられる場合で意味は異なってくる。

① 彼が来た。

② 彼に來られた。

③ バスが行った。

④ バスに行かれた。

⑤ 雨が降った。

⑥ 雨に降られた。

①③⑤に迷惑感はないが、②④⑥には迷惑感がある。

受動文専用の言い廻しがあるので、能動文と対座しないものがある。

① 彼女は情に絆された。

(她被感情所俘虏。)

② 彼らは火事に焼けだされた。

(他们遭受火灾被烧得无家可归。)

三 漢語の受動文

漢語の受動文を表現するには異なる種類のものがある。

(一) 意味上の受動文

何のマークもないもので、意味上の受動文である。このタイプの受動文は受け手を主語の位置に置くが、その主語の多くは事物であるので、形式から見れば能動文の語順と同じで、どう区別するかは意味に依るしかない。

① 文章发表了。(文章が発表された。)

② 书出版了。(本が出版された。)

③ 门锁上了。(ドアが鍵をかけられた。)

④ 药吃过了。(その薬は飲まれた。)

⑤ 门吹开了。(ドアが風に吹かれて開いた。)

⑥ 车号记下来了。(車のナンバーが書きとめられた。)

この種類の受動文は使用範囲が広く見られる。例をあげれば枚挙にいとまがない。意味上の受動文の特徴は動作者が現われず、ほめたりけなしたりする意味を持たず、一般的な道理を述べるだけである。この意味上の受動文は「被」を用いるとかえって不自然に見え、その意味には、ずれがある。

前に述べた例を借りて見ると、

① 文章发表了。

文章被发表了。

(文章が発表されることが望ましくない場合を意味する。漢語としてあまり自然な文とは言えない。)

② 车号记下来了。

车号被记下来了。

(たとえば、車のナンバーが警察に書きとめられるような場合を意味するかもしれない。好ましくない、不快な意味になる。)

(二) 「被」の受動文

介詞「被」「叫」「让」「给」を用いる受動文の主語は述語動詞の受け手である。それは「被」の受動文と呼ばれており、さまざまな表現をすることがある。

(a) 行動者として、ある特定の行為者が存在する。

① 儿子被父亲打了一顿。

(息子は父にひとしきり叩かれた。)

② 他被狗咬了。

(彼は犬にかまれた。)

③ 孩子叫开水烫了。

(子供は湯でやけどを負わされた。)

(b) 特定の行為者はあり得ない。

① 病人被抢救过来了。

(病人は緊急手当てで一命をとりとめた。)

② 他是好人却被当成了坏人。

(彼は善人なのに悪人にされてしまった。)

(c) 意に反した、起きてほしくないこと。

① 小孩子被大孩子欺负了。

(小さい子供が大きい子供にいじめられた。)

② 他被母亲骂了。

(彼は母親に叱られた。)

③ 我被他骗了。

(私は彼にだまされた。)

④ 我说的话被他听见了。

(私がしゃべっていた話は彼に聞かれてしまった。)

⑤ 求婚被拒绝了。

(プロポーズは断られた。)

(d) うれしいことやめでたいこと。

① 她被老师表扬了。

(彼女は先生にほめられた。)

② 他被大家选为主席了。

(彼は皆さんから主席に選ばれた。)

③ 我哥々被派去留学了。

(私の兄は留学に派遣された。)

(e) 事柄を叙述・描写する。

① 阳台上晒的衣服被风吹掉了。

(ベランダに干した服は風に吹かれて落ちた。)

② 我被她问得答不上来了。

(私は彼女に質問をされて答えに詰ってしまった。)

③ 病人被救护车送到医院去了。

(病人は救急車で病院に送られた。)

④ 那个村子被山环抱着。

(あの村は山に取り囲まれている。)

(f) 抽象的なこと

① 事故的原因被查清了。

(事故の原因は調べて明らかにされた。)

② 消息被封锁了。

(情報が遮断された。)

(三) 漢語の受動文によく使われる動詞

漢語にはいくつかの受動的な性格を有する動詞がある。

例えば、「挨」「遭」「受」「中」など。

① 那个孩子在家里经常挨打受骂。

(あの子供は家でいつもたたかれたりののしられたりする。)

② 他不幸遭人暗害了。

(彼は不幸にして人に暗殺された。)

③ 她中暑了。

(彼女は暑気に当てられた。)

(四) 漢語の受動文の文型

漢語では意味上の受動文と介詞「被」の受動文のほか、いくつかの受動文の文型がある。例えば「被……所」「被……一」「被……给」など。

① 我被他的话所感动。

(私は彼の話に感動させられた。)

② 我被他一问,不知怎么回答了。

(彼に急にたずねられて、私はどう答えてよいかわかりませんでした。)

③ 他被同犯给揭发了。

(彼は共犯者にあばき出された。)

④ 那个孩子被狗咬了。

(あの子は犬にかまれた。)

通常、話し言葉の中に「被」の代りに「叫」「让」「给」を使うことがあるが、その使い方は同じではない。「叫」

「让」「给」の場合には行為者（動作者）を省略できない。

他批评了。

他叫批评了。（不可）

他让批评了。（不可）

他给批评了。（不可）

四 日本語の受動文

日本語の受動文は「れる」「られる」が用いられる。

日本語の受動文は大きく分けると二種類がある。

(一) 直接の利害を表すもの

(a) 有情物が動作の直接の対象であるもの。

① 私は博士号を与えられる。

（我被授与博士学位。）

② 彼はあいつに殺された。

（他被那个傢伙给杀了。）

③ 李さんは上司に呼ばれた。

（李先生被上司叫去了。）

④ 王さんの提案が会社に採用された。

（王先生的提案被公司采用了。）

① 私、② 彼、③ 李さん、④ 提案は目的語である。実際の

動作者を「に」で示す。漢語では「被」で示す。

動作者の作用が直接対象に及ぶもの。このタイプの受動文の組み立ては漢語と同じである。このような受動文は日本語ではあまり使われなと言われることもある。しかし欧文の影響を受けて、徐々に使用範囲が拡大している。

(b) 有情者の所有物、近親者、身体の一部、動作の方

向などが他動的な動作を受けるもの。

① 泥棒にさいふをとられた。

（钱包被小偷偷去了。）

② 悪童たちに庭を荒された。

（院子被淘气的孩子给糟塌得不象样子了。）

③ 彼は敵に息子を殺された。

（他儿子被敌人给杀害了。）

④ 私は弟にビデオを壊された。

（我的电视被弟弟弄坏了。）

⑤ タクシーにどろ水をひっかけられた。

（我被出租汽车溅了一身泥。）

これらの場合は被害のみであり、直接の被害といえる。動作の影響が益であるか害であるかはその動作の性質によって判断される。

(二) 間接の利害を表すもの

これは日本語特有の一大特徴である。このタイプの受動文は目的語のない自動詞を用いる受動である。もちろん、すべての自動詞の受動が成立するわけではない。例えば、「落ちる」「終わる」「痛む」など。

動作・事象の結果から来る間接の影響によって、主格は迷惑を被り、害を受ける。多くの場合、迷惑を受ける者は「私自身」であり、文の背後に隠れていることが普通である。

- ① 隣の赤ちゃんに泣かれて、一晩中ねむれなかった。
- ② 忙しいときに客に來られた。
- ③ 途中で雨に降られて、困った。
- ④ 三歳で父に死なれた。

これも動作者は助詞の「に」で示す。その作用は自分とは無関係に行なわれる行為だが、結果的には自分が影響を受ける。

この点是他動詞の受動文の作り方と共通している。前に述べた例文は漢語で表現すると、他動詞あるいは能動文も用いられる。

- ① 被邻居的孩子吵得一夜没睡。
- ② 正忙的时候，客人来了真糟糕。
- ③ 路上被雨淋了，真倒霉。

- ④ 三岁时，父亲死了。

(三) 受動的な性格を有する動詞

日本語には漢語と同様にいくつかの受動的な性格を有する動詞がある。例えば、「受ける」「浴びる」「貰う」など。

- ① 博士号を貰う。(被授与博士学位。)
- ② 傷を受ける。(受伤。)
- ③ 批判を浴びる。(受到批判。)
- ④ 砲火を浴びる。(遭到炮火袭击。)

五 漢語と日本語との

受動文の使用上の相違点

(一) 動詞の差異

日本語では、方向を表す動詞(「来る」「行く」「去る」「入る」など)、存在を表す動詞(「生きている」「死んでいる」など)、心理活動を表す動詞(「恐がる」「求める」「望む」など)、またいくつかの形容詞(「忙しい」など)が受動文に使われる。しかし漢語にはこのような用法がない。

- ① 私は母に仕事を頼まれた。
- ② 彼女は怒られた。
- ③ 泥棒に入られた。

- ④ 王先生は学生にこわがられている。
 ⑤ 私は散歩の道すがら会った乞食に食べ物求められた。

以上述べた例文は、漢語では能動文を使うのが普通である。

- ① 母亲叫我做一件事。
 ② 她生气了。
 ③ 小偷进来了。
 ④ 学生怕王老师。
 ⑤ 在散步的路上，那个乞丐跟我要吃的东西。

日本語では有情の受動者を中心にするため、自動詞の受動が生ずるが、漢語では他動詞のみに生じ、自動詞が受動になることはない。

(二) 発想の差異

日本語では、体の部分と所有物が動作を受けるときは持ち主が主語になる。言い換えれば体の部分と持ち主の所有物は別々に考えられている。体の部分は直接受身で、持ち主は間接受身である。

- ① 私は蜂に顔を刺された。
 ② 彼はネコに手をひっかかれた。
 ③ 彼女は隣の人に肩に寄り掛かれた。

- ④ 彼は隣の人に足を踏まれた。
 ⑤ 私は泥棒にお金をぬすまれた。
 ⑥ 彼は見知らぬ男に子供を連れさられた。

漢語では、持ち主と身体の部分と所有物とは一つになっており、それを切り離すことは必要ない。

前の例文は、次のように訳される。

- ① 我的脸被蜜蜂蜇了。
 ② 他的手被猫抓了。
 ③ 她的肩被旁边的人依靠着。
 ④ 他的脚被旁边的人踩了。
 ⑤ 我的钱被小偷偷去了。
 ⑥ 他的孩子被一个陌生人带走了。

日本語で考えるときと漢語で考えるときとは、受動表現は違ったものになるはずである。一般的に言えば、日本人が言葉を使う時には、深い意味を内に感ずることがある。曖昧性を好み、判断することを嫌う。中国人は心に思ったことをすぐ口に出し、相手の気持を考慮することが行き届かないので、しばしば聞き手に不快感を与える。

日本語の受動文の使用範囲は、漢語より圧倒的に広いようである（この点に関しては本稿諸例文の日本語を参照して欲しい）。

また、日本の一般書、雑誌、新聞、テレビの画面上の説明文などでも受動文がよく用いられる。

参考文献

- 佐久間鼎 一九八三 『現代日本語の表現と語法』 くろしお出版
- 松村明 一九七一 『日本文法大辞典』 明治学院
- 吉川武時 一九八九 『日本語文法入門』 アルク
- 相賀徹夫 一九九二 『中日辞典』 小学館
- 森田良行 一九九二 『基礎日本語辞典』 角川書店
- 芳賀綏他 一九九六 『あいまい辞典』 東京堂出版
- 安藤照一 一九九〇 『総合英語』 山口書店
- 李珊 一九八二 『現代漢語被字句研究』 北大出版社